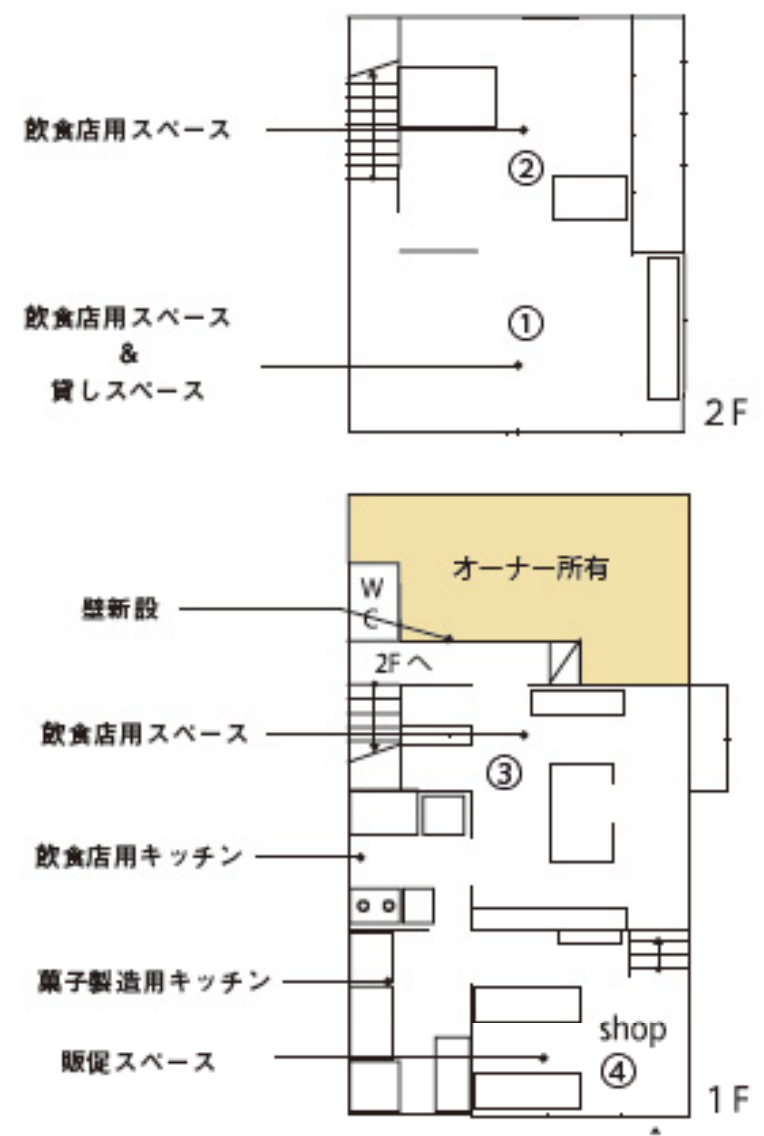
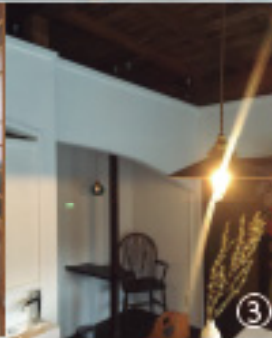


otonari

「つながる、このまち」

鹿児島市下伊敷栄門地区



story1

鹿児島市下伊敷栄門地

昔、軍の施設があった地区であり、宮門があった。それが、栄門へと変わり、通り会が発足。昔は市電もこの町まで通っていた。しかし、B6水害、3号線の拡張、後継者問題など、衰退してきている。周りは団地化、3号線と並行して甲斐川が流れている。中心地（天文館・中央駅）までも車で10分程度の立地であり、ベッドタウンに囲まれた地区である。学校も多くある文教地区である。この地区を活性化させていくことを目的としており、「つながる、このまち」をコンセプトに otonari はつくられたお店である。同じコンセプトで、宮門の残る栄門公園で elmon park bazaar も開催している。

story2

街と周辺

大学・専門学校・高校・中学校・小学校など、密集している地域であり、生活の場となっている地域である。その周りを囲む団地があり、昔のようにまた、賑わいを取り戻そうと、「つながる、このまち」をテーマに栄門通り会有志のメンバーで動き出している。

story3

隣の空き物件でつながる

そのメンバーである、坂口サン建築の坂口喜代美が、街に仕掛けるために、事務所棟の空き家を借りて otonari を運営している。隣の空き家を借りて借り、手を入れて、オーナーとしてまた賃貸、サブリースの形態をとっている。遊休不動産を、活用し、大家さんにも賃料が入る仕組みである。昔ここで販売していたなど、想いに賛同してくれる方とつながっていく。

story4

つくる過程でつながる

建築会社なので、ただつくることはできるが、「つながる、このまち」をテーマに、つくる過程でもつながるように、塗装のDIYワークショップを開催した。子供から、お年寄りまで、たくさんの方々が参加し、みんなで塗る。そして、顔見知りになって、この店にも愛着を持ってもらう。このお店を使いたい方も声をかけ参加していただいた。こういう点をおくことを、大切に、地域の人のよりどころとなる場所を目指した。

story5

シェアキッチンも街につなげる1つ

内部のプログラムは、「シェアキッチン・貸しスペース」である。シェアキッチンには、昔のパンつくり名人の方が入っていたり、自分のお店をしたい人がチャレンジキッチンとして使ったり、ワークショップを開いたり、写真の撮影に使ったりなど様々な。シェアキッチンにした目的は、チャレンジしたい人が、この街にお店を出したいと思ってもらえるきっかけになるように。やりたい人と、街をつなげる役割であり、この街に活気を取り戻すための一つである。

